

A版

第3社会

(23)

都内で赤水図公開

高萩市出身の江戸時代の地理学者、長久保赤水(1717~1801年)が作製した日本地図(赤水図)の実物が19日、都内で公開される。東京都千代田区の日本大経済学部で開かれる日本地図学会の例会で、個人所有の

あす・日本地図学会

赤水図が披露される。一般参加が可能で、実物を見られる貴重な機会になる。

赤水は1779年、日本地図「改正日本輿地路程全図」の初版を完成させた。天文学の知識を取り入れ、初めて経緯線を入

記載した日本地図を発行した。長久保赤水顕彰会によると、同学会は昨年4月に「長久保赤水図専門部会」を設置。今回は、同部会が主管する初めての例会という。

例会の第1部では、赤水図の公開のほか、同顕彰会の佐川春久会長が関連資料郡の概要を説明する。第2部では、日本大

の卜部勝彦教授らが高萩市内の中学校で実践した赤水図の地理教育利用について、成果を報告する。

会場は同大経済学部3号館7階3071教室。第1部は午前9時から。参加費500円(学生会員は無料)。第2部は同10時半から。参加無料。詳細は日本地図学会公式ブログに掲載されている。

(磯前有花)